

聖霊によりて宿り

2022年12月4日

ルカの福音書 1章5～38節

序：救い主イエス・キリストの誕生は唯一無二
彼の前ぶれをするバプテスマのヨハネの誕生も奇跡（アブラハムとサラの間に生まれたイサク）

I. 時代背景

ユダヤの王はヘロデ大王（B.C. 37～4年在位） 神殿建設等大事業、繁栄の時代
重税で民衆はあえいでいた
霊的、宗教的面では、世俗化、形式的で中身がない、腐敗・墮落、暗黒
わずかの主を畏れる人々は、約束のメシアの到来を折り、待ち望んでいた

II. バプテスマのヨハネの誕生の告知 5～25節

(1) 祭司ザカリヤ ————— 妻エリサベツ（祭司の家系）

- 律法を守り行なうことで義とされる
主の命令を、非難されるところなく守る
- 神の前に敬虔
- ふたりとも年をとっていた
- 子どもがなかった

(2) ザカリヤへの告知

神殿での務め = 聖所で香をたく（一人）
民は外で祈った

主の使い（ガブリエル）が現れる

- 取り乱し、恐怖 ↔ 恐れるな
- 妻エリサベツが男児を産む /、ヨハネと名付けよ
- その子は喜びとなる（親、多くの人々にとって）

その子は主の前に大いなる者となる

胎内にいる時から、聖霊に満たされる
イスラエルを主に立ち返らせる
主に先だって歩む（先駆）
主のために、整えられた民を用意する

ザカリヤの反応

不信仰（世の常識>神のことば）

その子が生まれるまで、口がきけなくなる

(3) 外で待っている民、口がきけないザカリヤは民を祝福できない

(4) ザカリヤ帰宅、妻の懐妊、妻エリサベツの信仰、主を賛美、感謝

III. イエス・キリスト誕生の告知

(1) エリサベツの懐妊から6ヶ月目

- (2) 同じ御使いガブリエル
- (3) ガリラヤのナザレの一人の処女のところに来た
ダビデの家系のヨセフと婚約
名はマリア
- (4) 祝福のあいさつ
マリアの驚愕、戸惑い
- (5) 身ごもって男児を産む
名をイエスとつけよ
神の子と呼ばれる
父祖ダビデの王位、揺るぎない支配
- (6) 処女である自分にはありえないこと（まだ、ヨセフと夫婦となっていない）
- (7) 通常の懐妊ではない
聖霊が、いと高き方の力があなたをおおう
生まれる子は、聖なる者、神の子
- (8) 神に不可能なことは一つもない
証拠：不妊の、年とったエリサベツがみごもっていること（今、6ヶ月）
- (9) マリアの信仰告白・主に任せ従う意志表示
私は主のはしため（女性のしもべ）、主のみこころのままになされるように

IV. 結び

- (1) すべて預言のとおり、成就する
イエスの前ぶれ、民を主に立ち返らせ、主のために整える＝ヨハネの使命
イエスが神（聖霊）を父とし、人間（処女）を母としてお生まれになる
イエスはダビデの子孫として生まれ、王位につく
- (2) 「恐れることはありません」と語られる
ザカリヤ、マリア、ヨセフ……
人はたやすく恐怖に襲われ、支配される ⇔ 主の与える平安
- (3) 主が私たちに求めておられるのは信仰と信仰に基づく従順
神のことばは、必ず成る
神には不可能がない
神は主人、私はしもべという契約関係にある（従う動機は愛と信頼）

しるしを求めたザカリヤ 思いを巡らし、みこころに委ねたマリア
- (4) 神のご計画は、私たちの信仰の応答によって進められる

聖餐式で覚えること

イエス・キリストは罪人の罪を贖うために来てくださった
きよい方でなければ代価を払えない（神でなければならない）
すべての罪を負って死ななければならない（人間の体を持つ）